

シェルターに入れない動物の緊急一時保護実装プロジェクト

日本獣医生命科学大学シェルターメディスン社会連携講座

日本獣医生命科学大学シェルターメディスン社会連携講座は、シェルターメディスンに関する研究を行っています。シェルターメディスンは、シェルターに收容された動物を対象として始まった学問ですが、現在では、シェルターに入れない動物も対象とする、地域社会全体の動物の動物福祉の向上を目的とする動物集団を適正に管理する学問に発展しています。

【活動背景】

シェルターに入れない動物の例として、様々な事情や理由で收容を拒否されてしまった動物だけでなく、虐待されている動物や、災害にあった動物、販売流通の対象外となってしまった動物等が挙げられます。このような動物たちの保護收容は、緊急を要する場合がありますが、緊急一時保護の收容先がほとんど見つからず、現在、大きな課題となっています。

【活動目的】

シェルターメディスン社会連携講座では、シェルターメディスンの研究を行っており、シェルターに入れない動物を対象して、緊急一時保護收容を実際に行うことで、どのような要因がシェルターに入れない動物を生むのかを調査し、その要因を取り除く、改善する方法を模索して、シェルターに入れない動物の動物福祉を向上させることを目的としています。



【助成金の用途・活動結果】

助成金は、傷を負った動物の検査費用などの医療費や、一時保護に用いる折り畳み式のケージ、タオルマット等の購入に活用されました。23年度は約30頭の一時保護收容を行いました。

【団体からのメッセージ】

緊急一時保護制度が法整備されていない中、地域社会でシェルターに入れない動物の動物福祉をいかに向上させるかという新たな挑戦をご支援いただき誠にありがとうございます。
このような社会問題は、大学の一講座の活動で解決することは不可能ですので、地域の皆様と共に、活動を続けさせていただきたいと考えております。